

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	有限会社 人形劇団京芸
公演団体名	人形劇団京芸

内容
<p>本公演で児童・生徒がカッパの人形を遣って出演をします。そのために、</p> <ol style="list-style-type: none">1. カッパの人形を作ってみる2. カッパの人形を遣ってみる <p>の内容のワークショップを実施します。</p> <p>前半、後半と時間を区切り、前半では心と体を解放する演劇的なワークショップを実施したのち、カッパの人形を新聞紙などの手に入りやすいで作ります。休憩を挟み、後半では作成したカッパの人形を遣って人形劇体験を実施します。相撲が大好きなカッパたちなので、相撲の動き(しこふみ・つっぱり)などをしたり、自由に体育館をおよぎまわったりします。</p>

タイムスケジュール（標準）
9:50 劇団員が会場へ到着
10:50-11:35 1時限目：人形作り
11:35-11:40 休憩
11:40-12:25 2時限目：人形操演体験
12:25-13:00 担当の先生と本公演に向けての打合せ

派遣者数
5名（内メイン指導者1名）

学校における事前指導
<p>以下にある人形作りのための材料を、ワークショップに参加する人数分、集めていただくようお願いします。</p> <ul style="list-style-type: none">○『カッパ人形の作り方』説明書 劇団用り参加人数分ご用意ください○新聞紙 朝刊3冊分×人数分○ゴミ袋 45リットルのもの2枚×人数分○レジ袋 45cm×21cmくらいの大きさのもの1枚×人数分○セロハンテープ 一人1つ行き渡るようにしてください○マジックペン 装飾用いろいろな色をご用意ください○色上質紙 くちばし用。いろいろな色をご用意ください

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

制作団体名	有限会社 人形劇団京芸
公演団体名	人形劇団京芸

演目
『とどろヶ淵のメッケ』 【原作】富安陽子『とどろヶ淵のメッケ』(佼成出版社刊) 【脚色・演出】北村直樹(人形芝居ひつじのカンパニー) 【美術】清水正年 【音楽】ノノヤママナコ(マナコ・プロジェクト) 【照明】尾鷲武志 【人形製作】人形劇団京芸 【舞台装置製作】吉田貴志(ヨシダ人形劇)・人形劇団京芸 【制作】山本いずみ <p style="text-align: right;">公演時間(80分)</p>

派遣者数
9名(演者7名・スタッフ2名)

タイムスケジュール(標準)					
到着	仕込み	本公演	内休憩	撤去	退出
7時30分	7時30分 ～11時	13時～14時20分	なし	15時～17時	17時

※本公演時間の目安は、午後1時乃至1時30分からの概ね2時限分程度です。
※上記スケジュールの場合、リハーサルは11時から11時45分に行います。

実施校への協力依頼人員
リハーサル時に出演の児童・生徒を体育館に連れてきていただくようお願いします。 開演時に児童・生徒を体育館に連れてきていただくようお願いします。会場への入場は劇団員の指示に従いながらお願いいたします。 上演時に先生の内の代表1名に出演していただきます。

演目解説

【あらすじ】

カッパたちが集まって暮らす山にある竜神沼では毎夏、それぞれの淵に住むカッパたちが集まっての相撲大会が開かれます。

そんな淵の一つ、とどろヶ淵に住むメッケは今年も連れて行ってもらえず留守番です。

しかし、みなが出発して3日後、とどろヶ淵に流れ込んでいる滝の流れが止まってしまいます。カッパにとって水は命。メッケは流れが止まった原因を探るために旅立ちます。



途中、好奇心旺盛なソッカ、力持ちのヨッシャと出会い、ともに竜神沼を目指します。一行の前に立ちはだかる正体の分からないウロウロや、カッパたちに伝わる巻物の謎を解き明かしながらたどり着いた竜神沼で、水の消えた原因を知る大ガメに出会います。大ガメに告げられた水を取り戻す方法は何か、興味がいつしか仲間を助ける気持ちに代わったメッケが取った行動とは。

カッパたちと大冒険をしながら自分にとって、友達にとって、世界にとって大事なものを見つけにいきましょう。



【みどころ】

『とどろヶ淵のメッケ』は沼や淵など水の中が舞台の人形劇です。照明や音響そして舞台装置で水の表情が一刻一刻変化する中、登場人物たちが自由に泳ぎ回り行動する様子は観る人の想像力を刺激します。

また、見つけるのが得意なメッケ、調べるのが好きなソッカ、そして力自慢のヨッシャという、年齢も体格も興味も違う3人が時にはぶつかり時には協力しながら水

を取り戻し仲間を助けるために冒険する姿は多様なロールモデルを児童・生徒に提示し、他者に共感し応援する体験となるとともに自己実現の礎となります。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

児童・生徒は子どものカッパ役で人形を遣って公演冒頭に参加します。実施校のそれぞれがカッパたちの暮らす淵になり、児童・生徒は大相撲大会を楽しみにするカッパとして出演します。公演で使用する人形は事前に自分たちで作成したものです。相撲の基本的な動作であるしこふみやつつぱりなどを披露し、踊りながら竜神沼の相撲大会へと向かいます。

児童生徒とのふれあい

上演後には人形でのお見送り体験や、出演した人形とのふれあい、舞台見学など、実施校の希望を聞きながらの人形劇体験を実施しています。